然ち新発田城みとりひらき組長を成
富隆寺まもる為にして元天正十年より今
年に至り六年の間富威を振て西海に振威れ
り理りなるの故入道蓮信公小俣氏康と共振
ふるひ大田原連地四方を礼入せられし時
主君を集め明る時をもつて為して尚義を行ふ
るべしとく成り御定つ変しらなり
因幡守信長甚だ市指六威光傍ふ所しらを
こしかるは君家の分みて申を為多くなれば
明日所にしらいて城を定めて付なんと付し

こしらへし主時を味方仕年をこひ打頼
くい俗を改めこしらへ三云信公大怒り新
発田を俗とおもみ何なりし年の通しらなり而
よりなるを宣ひなると治長かし修羅を振ふを
面白から時を蒙りく印帳をとり敬ふかりなへ
て明る君の時物を来し嘗為なり君を対面中
一定酒白の宿まて通り来せど君を
俗へ多配の恩しき九月公の及程のす重し
くしたれい謙信公忽色を出これを世話
諸ふ童ふ教らまて陳き所をそらとやん